

令和7年度 学校自己評価（年度初め）

本年度の 重点目標	1 社会的自立に向けて主体的に取り組み、個性や能力を生かしながら多様な人々と協働できる生徒を育てる。 2 従来の指導方針を継承しつつ、社会のニーズも視野に入れたキャリア教育を進める。 3 いじめ・不登校等への支援、作業中の事故や熱中症等への対策を通して、安全で健康的に活動できる環境を整える。 4 教育活動全般を見直し、業務の軽減や適正化・効率化を図る。		
項目 (担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
生徒の主体性の伸長（教務部）	自立活動の充実を図る	・自立活動担当者会にて、自立活動の実施方法や内容、目標の設定の仕方などを検討する。	・自立活動として、6区分27項目から、適切な目標設定をできるようにする。
教育課程の見直し、キャリア教育の充実（教務部）	個別の指導計画の適切な目標設定と評価の実施	・各教科会にて、授業改善や目標設定、適切な評価の仕方について検討する。	・「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の評価内容や表現方法についての充実を図る。
教育課程の見直し、キャリア教育の充実（進路指導部）	自らの進路を考え、主体的に進路活動を行えるよう、組織的かつ計画的な進路指導を行う	・自立活動における「自分ノート」を活用し、自分を知ることと関連付けながら、見通しをもち、事前学習や振り返りをしっかり行う。	・自立活動主任や担任等、関係する職員と連携をしながら進路活動を行えるようにする。 ・生徒が自ら進路活動に取り組めるように計画を明確にして進めていく。
教育課程の見直し、キャリア教育の充実（教育支援部）	校内研究の充実を図る	・新実習日誌の効果的な活用方法や自立活動について、工業科主任や自立活動主任、教科会と連携しながら進めていく。	・グループウェア等を使った全職員での情報共有と検証に努める。 ・OJT型の校内研究を進めることで、職員の過度な負担にならないようにする。
人権意識の涵養、安全教育の充実（保健体育部）	心身ともに健康的な学校生活の実現	・日々の健康観察から、心や身体の状態を把握し、いじめや不登校などに学級や学年の職員と連携して対応する。 ・特に部活動等でのけがの予防に努め、発生時に、より適切な対応ができるようにする。	・必要に応じて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携して対応する。 ・生徒が報告、相談しやすい関係・環境づくりに努める。 ・部活動等においては災害報告書を参考に個に応じた練習メニューを工夫する。作業学習ではヒヤリ・ハットの情報共有を行い、けがの再発防止に努める。
人権意識の涵養、安全教育の充実（生徒指導部）	社会ニーズに準じた生徒指導の確立と業務の連携	・部活動に対する社会情勢を鑑み、生徒の実態に即した体制等を整えていく。 ・携わる業務の引継ぎ、見直し連携を確実に行う。	・過去の形にとらわれず、様々な変容への対応力を身に付ける。 ・各業務を互いに助け合い、業務を熟知できるようにする。 ・情報提供（回覧等）をしっかりと行う。

教職員の働き方改革の推進 (総務部)	業務の軽減や適正化・効率化を図る	・業務内容の精選と適正化を検討し、見直しや改善を図る。 ・検討事項を明確化し、会議時間を短縮する。	・各業務担当と連携して改善点を具体化し、改善方法を検討する。 ・議題の状況に合わせて会議を書面開催することで、業務時間を確保する。
教職員の働き方改革の推進 (寮務部)	勤務時間の適正化、業務の効率化を目指す	・寄宿舍職員の勤務時間が変わったことによる業務の効果を探る。	・保健体育部や養護教諭、学年主任、管理職等とも連携を図り、課題を洗い出し、実現に向けた手立てを考える。
教職員の働き方改革の推進 (部会・運営委員会)	勤務時間の適正化 業務の効率化	・欠席連絡や配付物の通知にマチコミアプリを積極的に活用し、電話対応の軽減と、より効率的かつ確実な情報提供を行う。 ・長時間労働の是正に向けて、月2～3回のノー残業を設定し、全職員が計画的に業務を進められるよう意識付けを行う。	・アプリによる配信が確実かつ効果的に機能するよう、配信内容やタイミングに配慮しながら運用を行うとともに、伝達漏れが生じないよう、アプリと紙媒体を状況に応じて併用する。 ・個々の事情に配慮しつつも、全職員が共通認識をもって取り組めるようにする。また、時間外勤務の実態を定期的に振り返り、共有する機会を設ける。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		・生徒の主体性の伸長 ・教育課程の見直し、キャリア教育の充実 ・人権意識の涵養、安全教育の充実 ・教職員の働き方改革の推進	